

NJ 素流協 News

令和 8 年 9 月 10 日

第 260 号

令和 8 年 9 月 10 日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園 1 丁目 3-6 (農林会館 5 階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合 令和 8 年度第 1 回林業経営講座

海外をテーマとした講演報告、意見交換が行われました！

NJ素流協は 8 月 26 日、「海外の林業動向について」をテーマにした今年度第 1 回目の林業経営講座を盛岡市で開催しました。本講座は、1. 海外で活用される林業機械についての講演、2. 昨年度当組合で開催した海外視察研修の報告、3. 次回の海外視察研修企画に向けた意見交換の 3 部構成で行われ、21 名の参加がありました。

最初に、鈴木信哉理事長から、「昨年、ノースジャパン主催の初の海外視察研修として、ニュージーランドに行きました。その話を聞きたいというお声もあり、今回、海外に焦点を当てた経営講座を開催しました。海外視察というと北欧・ヨーロッパが主流ですが、ニュージーランドという中々行く機会が無いところを見るところという意味あるものだったと思います。ですが、ニュージーランド内

の日本の大手製材工場は休業・廃業も多いので世界の情勢は刻々と変わるなあと感じています。世界の林業事情を勉強していただくとともに次回の海外視察のご意見をいただきました。と思っています」と挨拶がありました。



鈴木理事長挨拶

1・講演「日立建機日本の林業への取組」海外林業機械の最新情報」

日立建機日本株式会社 事業統括部 本営業部 業種別・応用製品推進グループ営業課長

日立建機日本の林業の取組 野口 和也氏

日立建機(株)と日立建機日本(株)の共同で、林業アタッチメントのパフォーマンスを良くするための専用機を開発しています。林業の現場で最も使われる木材グラブは、グラブ作業に必要な装備品を標準装備したパッケージをご用意しています。中でもポイントとなるのは、透明天窓や、油の取り出しを増やすPTOバルブ用品、衛星通信端末といった装備です。

次に、ハーベスタ・プロセッサです。こちらも、アタッチメントに多く流量を与えるような工夫をしています。また、チェーンショット対策として、フロントガラスをガラスではなくポリカーボネートにすることで、チェーンが飛んできた時に衝撃を抑えてくれます。さらに、林業のアタッチメントへの負荷を低減させる取り組みとして、作動油を送る方の配管(ポンプポート)よりもタンクポートを太くしてパフォーマンスを良くしています。

木材グラブの上部配管仕様についてもお話しします。アームの上面

の部分に油圧配管を集中させ、左右にホースが出ないようにしてホースの破損を防ぐ取り組みを、日本独自の取り組みとして、日立建機日本が行っています。



日立建機日本(株) 野口氏

Waratah社製のハーベスタを導入することによって、我々も勉強させられるところが増えてきて、これをきっかけに様々な取り組みへとつながっていききました。

世界の林業機械メーカーの中でビッグ3と呼ばれるのが、John Deere Forestry、PONSSE、コマツフォレストです。Waratahという会社は、この中のJohn Deereグループの会社で、グループのハーベスタヘッドを単品で売るためのブランド社です。

我々は2014年から、レンタル

事業として同社のハーベスタを導入し、2017年にフィンランド視察で、Value Bucking (バリューバッキング) システムを勉強しました。日本国内でも使えないかと取り組んでいます。また、伐倒での事故が多いので機械伐倒を増やしたいという声もあり、2021年にはJohn Deere、Waratah協力のもと、林業専用のテレブーム機を開発しました。



ハーベスタ専用機

FL135USL6テレブーム機

このテレブーム機は、林業専用のフロントを付け、センターから11.4mの長さを持ったハーベスタで、伐倒、集積、造材までできます。また、タワーブームを付けて回送姿勢がとれるようにしたり、林業専用の

ハイトラック仕様にしたり、先ほどお話ししたチェーンショット対策のポリカーボネート仕様の窓や、バリュースタッキング・カラーバッキング等々標準装備にしています。さらに、伐倒するにあたり、MTH (マルチツリーハンドリング) にも取り組んでいます。初期の間伐や支障木等を複数本つかんで伐れるものです。機械伐倒が進んでいくと、より効率的に伐倒したいという要望で導入しました。海外の初期の間伐現場では当たり前のように使われているシステムです。

機械ではありませんが、伐倒に関して、10m離れてくさびを打ち安全に伐倒できる、ドイツ製油圧式伐木システムも取り扱っています。

Waratah ニュージーランドチーム

Waratahの組織編成で、昨年からはニュージーランドのチームが日本とやり取りするようになりました。オーストラリア、ニュージーランドのハーベスタヘッドのシェア約90%はWaratah製というくら

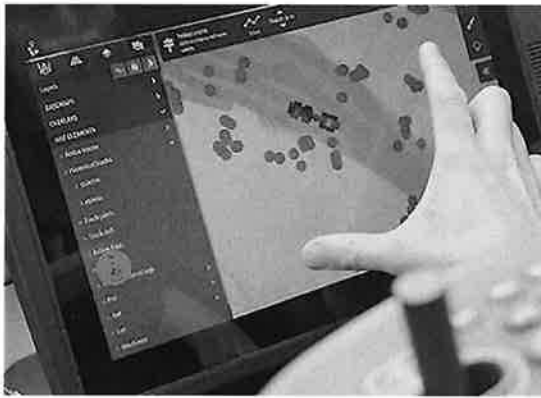
い影響力があります。ニュージーランドのチームは、世界中のコンピューターシステムに精通しているため、他のメーカーの製品まで詳しく知っています。当社としても勉強になり、刺激を受けています。SNSを見ると、同社のヘッドでベースマシンは他社製で動いている機械の動画があります。

Timber Matic Maps (ティンバーマティック・マップ)

今、最先端のハーベスタコンピューターシステムの普及に、一番取り組んでいます。機械の位置、採材された位置、どこにどんなものが何mあるか、すべて把握できるシステムです。リアルタイムに生産管理ができ、フォワーダにもその情報が来るので、どう集めてきたら良いか把握できます。来年、日本でスターリンクが本格普及すれば、ハーベスタ自体がWiFiルーターになってくれるので、林内の通信環境の充実という点でも期待できます。

このシステムを使うと、John Deereのクラウド上にあるTimber Man

他の最先端システムとして、主に
フオワードについているインテリジェ



データを見てリアルタイムで状況把握！

888(ティンバーマネージャー)というソフトも無料で使えるようになります。クラウド上にハーベスタのデータが行くので、社内パソコン・スマホからデータが確認できます。地図上に伐採地の範囲を入れることもできるので、スマホから境界線を確認することも可能です。お客さんだけでなく我々側にも、機械の故障診断等がリアルタイムで分かり、初期トラブルを事務所で確認してから現場に向かうことができるというメリットがあります。

ントブームコントロールは、オペレーターの技術格差を無くすためのもので、丸太をつかんだら自動的に積み込んでくれるといった作業に対するアシスト装置があります。

最近、日本でも使えるようになってきたIHC(インテリジェント・ハーベスタヘッド・コントロール)も紹介します。今までハーベスタに固定されていたトップナイフが、コンピュータで制御されて動くことでよりスムーズな造材ができます。オペレーターへの振動も抑えられ、長時間の作業を助けます。

日本の林業大学校でも導入されている、シミュレーターを使ってトレーニングするという取り組みも行っています。

Value Bucking(バリューバッキング)

バリューバッキングは、径級・長さ・価格情報をハーベスタ(コンピュータ)に入力することで、1本が高い価値になるように自動的に選択してくれる機能です。入れるデータは、価格データ、何が何本必要か需要に

関するデータ等様々です。ハーベスタは過去10本の造材したデータを覚えて細りを予測し、常に測りながら

採材プランを自動更新

採材の途中で最初に立てた最も高く売れるプランと実際の直径、長さに変化が生じたら、次に高く売れるプランに自動的に変更してくれるので安心して任せられます。

例えば...

伐倒時の元口直径 200ミリ

直径200ミリなので長さ6メートルで玉切りすれば¥30,000で売れる。

実際は...

しかし6メートルより手前で直径が160ミリしかない！

これでは長さ6メートルで採材しても¥30,000にはならない！

それなら長さ3メートルにすれば¥22,500で売れる！

日建建設

欠点や曲りがあったら...

オペレータの判断でブレードを下げてとそれに合った最適プランで採材します。

Log A : 用材A(大)
Log B : 用材B(小)
Log C : 用材C(大)
Small Log A : 小径木A(大)
Small Log B : 小径木B(小)
Pulp : パルプ
Log stem :

その他、顧客から注文を受けた特定の直径、長さに限った採材プラン設定も可能です。

waratah

全木1本が高く売れるように採材プランを出してくれます。

採材しながら材積データを作成でき、実際の丸太の数とデータが合うか確認するためにも、玉伐りと同時にスプレーするカラーマーキング機能の活用ができます。無色を加えると4種類の色で工場ごと、径級ごとに分けられます。

材積集計を活用して、ティンバーマティック・マップを使うことで、どこにどの材が何mあるか分かるようになります。

最後に、日立建機日本は海外の林業展のツアーも組んでいます。ツアーをすることで、お客様と一緒に海外へ行つて最新技術を学んでいます。来年度以降、スウェーデン、オーストリア、ドイツの展示会の企画ができればと思っています。

2・報告「令和7年度ニュージーランド視察研修について」

NJ素流協として初めて企画した海外林業視察研修の報告を、視察に参加したNJ素流協職員と組合員さんが行いました。

実施日…昨年11月8～14日
研修先…ニュージーランド



海外視察研修報告の様子

視察行程や視察内容、視察して特に印象に残ったこと等が報告され、海外視察に参加していない組合員さんはずきながら熱心に聞き入っている様子でした。

海外視察研修の詳細は素流協news251号及び252号をご覧ください

ださい。

3・意見交換「次回海外視察研修開催に向けて」

今後の海外視察研修の行き先の参考とするため、会場参加者が実際に海外に行った経験や聞いた話をもとに、ざっくりばらんな意見交換が行われました。

【意見・情報提供】

- ・スウェーデンのElmia Wood(エルミアウッド)は世界最大の林業機械展と言われているが、諸事情により規模が縮小しているらしい。

- ・林業国と言われる北欧よりは、もう少し南のスイスやオーストリアといったアルプス辺りの方が、架線もやっついていて、小規模で、急峻な現場も多いため、日本との共通点は多そう。

- ・過去にオーストリアに視察に行った際は機械展を山の中でやっていた。また、天然更新による「本当の森林」を見ることができた。

- ・視察に来るのは専務クラスが多い。ぜひ社長クラスも来てもらって勉強

になるような研修を。

- ・機械の性能を見たいのか、文化を感じたいのか。行く人の目的の違いにも注目。せっかくなら継続したカリキュラムやテーマを持って複数回にわたってやってもいいのではないかと。色々な視点で見ると楽しいと思う。



意見交換会の様子

- ・この間オランダに行ったが、今話題になっている林地残材の利用方法のヒントはここにあると感じた。あまり林業の視察先として選ばれない場所にヒントがあるかもしれない。

- ・産業推進と自然保護、野生生物との関わり方という観点で、北米(グリー)との共生、イエローストーン

国立公園の狼等)という選択肢もいいかもしれない。

- ・機械メーカーさんがお付き合いのあるところにツアーを組んでもらう等外部のつながりをフル活用する。
- ・ニュージーランド視察研修では、山の中の現場に特化して見せてもらえて良かった。

- ・大きな林業展示会の開催に合わせて行くのも選択肢の一つとして。

- ・南米だとチリが日本に似ていて見応えがあると聞いたことがある。

- ・ブラジルはユーカリの植林が盛ん。成長が速くチップ化して大量輸出している。ただ、ユーカリは環境的な評価は良くない？

- ・せっかくNJ素流協で企画するのなら、組合員さんの役に立つ、かつ刺激を受けるような視察プランを立てて実行したい。

今後、海外視察先についてアンケートを実施する際は、ぜひ回答にご協力ください！



トピックス

福島県初の組合員会議
を実施しました！

会津若松市で組合員会議を行いました！

NJ素流協は、北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県を事業地区として活動してきましたが、さらに幅広い組合活動を展開すべく、令和4年に福島県が事業地区に加まりました。近年は福島県の組合員も加わり、活動の輪が広がっています。これを受け、8月18日に初めて福島県で組合員

会議を開催しました。

会議では、木材の需給動向の話題提供や今年度事業計画・地域状況等について説明したほか、活発な意見交換が行われ、様々な意見や情報を共有する有意義な機会となりました。

第16回いわての森林の
感謝祭に参加しました

8月9日、岩手県久慈市の平庭高原で第16回いわての森林（もり）の感謝祭が開催され、達増拓也岩手県知事をはじめ、林業関係者、地元の小中学生など総勢約350名が参加しました。当組合からは鈴木理事長と八柳経営企画管理部長兼営業企画部次長が参加しました。

いわての森林の感謝祭は、森林の恩恵や、森林を守り育ててきた先人の努力に感謝するとともに、林業の発展や森林に対する県民の理解を深めることを目的に年に一度開催されていて、今年の会場である平庭高原は「日本一の白樺美



いわての森林づくり県民税が活用されているイベントです

林」と言われています。

式典では、主催者である達増知事の挨拶の後、中平均久慈市長から「久慈市は海のイメージがありますが、多くの森林を有しており、平庭高原の天然シラカバ林はたいへん貴重です」と歓迎の挨拶がありました。

式典の後は、成長を期待しながら、参加者全員でシラカバの苗を植樹、最後には、食材すべてが久慈市産のお弁当を美味しくいただきました。

TEAM森林再生大船渡の
会議が行われました
「被害木活用に向けた
取組みが進んでいます」

岩手県大船渡市で発生した大規

模林野火災からの森林再生と被災木の有効活用を目指すTEAM森林再生大船渡の会議が7月29日に行われ、構成団体の1社である当組合からは、八柳経営企画管理部長兼営業企画部次長が参加し、以下の内容が決定及び報告されました。

- ①新規入会 5社
- ②被害木の製品納入報告
東京海上ビルディング等に116㎡納入
- ③モクシオン（日本全国と東京都が連携して行う、国産木材の魅力発信拠点）にて岩手県主催のセミナーを開催
- ④今後の活動計画
 - ・モクコレへの参加
 - ・納入可能製品の一覧表の作成
 - ・大手ゼネコンなどへのPR
 - ・岩手県発注の工事での利用を依頼する

以上に加え、各構成団体からの報告が行われました。

お知らせ

バイオマス新規工場について

東北4県で、新設バイオマス工場が以下の通り稼働予定・稼働済みです。これ以外にも、構想段階の発電所もあり、今後、バイオマス用原木・チップの需要拡大が期待されます。

県	市町村	工場名	出力規模 (kW)	稼働開始 (予定含む)
青森	むつ市	クリーンウッドエナジー	1,990	2027年12月
岩手	八幡平市	㈱八幡平ネクストエナジー	7,100	2027年1月
	矢巾町	古里FICエネルギー合同会社(矢巾発電所)	1,900	2026年5月
	遠野市	㈱グリーンパワーとおの	1,990	2026年12月
秋田	横手市	㈱県南バイオマス発電所	7,100	2026年12月
	横手市	横手湯沢フォレストサイクル(横手発電所)	1,980	2026年6月
	湯沢市	横手湯沢フォレストサイクル(湯沢発電所)	1,980	2026年10月
山形	新庄市	もがみバイオマス発電2	7,100	2026年10月

令和8年度第2回林業経営講座を開催します

令和8年度第2回林業経営講座として、作業計画、現場作業者との情報共有等に活用できるGISソフト等に関する勉強会を前期と後期に分けて開催します。
詳細は別途お知らせしている案内文をご覧ください。講座の様子は、後日素流協Newsに掲載予定です。

■テーマ

GISを活用した現場管理

■日時

前期 9月29日(火)

9:30～16:00

後期 10月22日(木)

9:30～16:00

■会場

マリオス盛岡地域交流センター
187会議室(岩手県盛岡市盛岡駅西通2丁目9-1)

■内容

パソコン用無料GISソフト「Q

GIS」及び携帯端末用アプリ「Q Field」の基本操作・活用

海岸防災林再生活動を実施予定！

今年度の組合員参加による再生活動を以下の通り実施予定です。

さらなる詳細につきましては後日ご案内差し上げます。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1・日時

10月27日(火)～28日(水)

※両日とも、段階的に集合・解散可。

2・場所

宮城県名取市下増田字台林国有林

3・内容

本数調整伐及び伐採木搬出ほか

9月10日時点の樹種・材種の不足状況について

●集材材用

原木集荷が順調となり、工場原木在庫は増加の傾向。製品は国産材への代替需要が進み、販売は順調で原木の制限は無い。

●合板用

住宅着工戸数減少の影響は依然

として大きく、スギの納入制限は続く。秋需に期待。一方で、カラマツ・アカマツについては在庫が少なく、引き合いは強い。

●製材用

間柱の引き合いが強まり、スギ3m材(中目材)の引き合いは引き続き強い。また、スギ・カラマツの小径木(8～16cm)も引き合い有り。

新職員紹介

9月1日付新任

営業企画部 課長

遠藤 祥五(えんどうしょうご)

営業企画部で勤務することとなりました。

出身は熊本県八代市ですが、東北に住んで22年目で40歳になります。

これから皆様のご指導を仰ぎながら、精一杯努めてまいりますのでよろしく願います。

また、皆様にお会いすることを心待ちにしております。

ちよつと気になる木の話

122

丸太情報流の復活へ

― 伐った丸太の困った時の
行き先、注文受けた丸太の
入手先どこへ? ―

種がわからない」、「アカマツ2mが大量にあるけど合板工場行けるところないかな」という問い合わせもあったが、実際にはそれぞれ「ドロノキ」、「ヒメコマツ」だったという樹種問題もある。

● 個々の商売の話は自分でやってください。我々事務局・県職員の仕事ではありません。● 県内の工場の使う樹種、規格は分かっています。● 県内の工場の実情は知識がありません。まずは、県内工場向けに供給することが優先でしょう。

● 希少で量が少ない樹種・銘木の行き先までは我々は知りません。

● 丸太の流通なら、戦後日本の流通を担ってきた原木市場に相談すればいいでしょう。

● 単価が上がったバイオ工場用に杭材が流れるなら、杭材工場に単価上げると言えればいいでしょう。

このような回答なのかもしれないかなあ。

でも、「困っている人を助けてあげなさい」は我々日本人が、小中高で常に先生から言われてきたことである。もちろん両親からも。なのに「俺は俺の範囲内の仕事で、自分に与えられた、しなければならぬ仕事だけすればいいんだ」という感じになっていないだろうか?

一番、情報流が確立しないのは、県を超えて、工場毎の幅広い知識を収集する気持ちがないことである。せっかく育った木を全て有効に活用するには、県内だけでは困難である。

県産材振興と言うが、求められているのは国産材振興である。ましてや、県外の工場の方が輸送コストが安い県境の人や、丸太単価が

高く、遠くまで運んでも山元手取りが高い工場向けは尚更である。

それなら、工場毎の各樹種の単価を公表するサイト作つたら? それはやっぱり無理っぽいですね。工場側から考えると、他より安い単価一覧で見られるのはねえ?

話を戻して、原木市場の人なら分かるでしょう? しかしながら、原木市場は地域毎に主な取り扱いが限られていること、集荷先・販売先が限定的であること等から、こうした相違や問い合わせに対応しきれていない。特に、県単位で見ると全く市場機能が発揮されていないところもある。どこのことかは各自想像で。

結局は、情報流の窓口を担う組織が必要である。当組合は「組合員のため」が中心である。他のエリアでも、どこか、だれかが窓口を担う役割を担ってほしい。

情報流が全くと、せっかく育った木にとつては、天気は真つ黒な曇り空。大径材の杉、桧、広葉樹だけは市場で高く売れるといった情報なら、曇り空の中から一筋の光が見える天気。一般材でどこが売れるか分かんると、太陽が曇り空から大きく顔を出す天気。ありとあらゆる丸太の行き先が分かると、真つ青な青空の天気である。真つ青な青空、目指しましょう(まぶしいけど、目を開けていれば全開である)。

最近、当組合に問い合わせがあった事例を紹介したい。「宮城県の道路支障木(国有林材)」で、大径材のネズコが伐採玉切りされた後放置されている。高く買ってくれる人に販売したらどうか?」、「栃木県の広葉樹用材、売り先が分からないけど、どこへ行ったら高く売れるの?」、「岩手県で、自分はこれまでヒノキ山を伐つていないし品質もイマイチだけど、ヒノキの行き先ないかな?」、「ナラ枯れ被害木なんだけど、結構太くて白太がちょっと変色してるだけなんだけども用材で買ってくれないかな?」、「ユネスコ無形文化遺産の山車に使うアカマツ80cm上の丸太ありませんか? 探してほしい」、「北関東のカラマツ土場で、〇〇円/mで買われた丸太があるんだけど、行き先毎の本当の単価はいくらなの?」、「山梨県の素材生産業者は、広葉樹を全てチップと薪の業者に売っている。自分もナラ30cm上でトレーラー2台分出るけど、売り先が全く分からないから教えてほしい」等々多数である。

一方、「丸太探して」の相談も多い。「隣の県の〇〇市産材のスギの見積もりが来たけどどこにあるかな?」、「サワグルミはじめ、合板用広葉樹が欲しいけどもっと集荷できないかな?」、「樽用のスギの大径材が欲しいけどだれか伐つていませんか?」、「ブナ丸太が無く、このままではヨーロッパから輸入しなければならぬ。伐っている人を紹介してほしい」、「秋田では、ヒバが無いのでヒバがあるところから世話してほしい」、「バイオ材が高くなって、カラマツ杭材に分別してくれず、足りないのだからでも調達したいのでよろしく」等々である。

何故、こうした問い合わせが多数あるのかである。川上と川中の情報流の確立が出来ていないことが要因である。そして、この情報流の窓口も無いところに最大の問題がある。でも、相談してくる各社とも、各県の素材生産団体・木材団体(県素協、県木連)もあり、そこに相談すればいいんじゃないか? 各県庁に相談すればいいんじゃないか? しかし、相談してもうまくいかないのは次の理由かな?

令和8年8月分の販売実績

樹 種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	11,513	102.7	123.3	21,785	103.3	145.8	33,298	103.1	137.1
カラマツ	4,736	81.7	83.5	766	93.7	364.4	5,502	83.2	93.5
アカマツ	1,060	106.2	47.6	0	*	0.0	1,060	106.2	46.0
その他	128	1,927.1	1,730.0	686	134.8	641.9	814	157.9	712.4
合 計	17,437	96.8	101.1	23,237	103.6	151.5	40,674	100.6	124.8

樹 種	燃 料 用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	5,807	84.6	116.0
カラマツ	4,144	99.7	95.6
アカマツ	512	138.9	60.7
その他	1,352	146.2	235.2
合 計	11,815	95.9	109.8

樹 種	今 年 度 累 計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃 料 用 (t)
ス ギ	62,819	91,346	154,166	27,172
カラマツ	24,617	3,442	28,059	22,835
アカマツ	6,501	224	6,725	3,213
その他	353	2,609	2,962	5,288
合 計	94,290	97,621	191,911	58,509
目標達成率(%)	37.7	46.7	41.8	48.8
計 画 量	250,000	209,000	459,000	120,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和8年9月の需給動向】

- 集成材工場では、工場原木在庫は増加傾向にあるが、販売は順調のため原木の納入制限はない。
- 合板工場では、住宅着工減少の影響が大きく、スギの納入制限は続く。一方でカラマツ・アカマツは引き合い強まる。
- 製材工場では間柱の引き合いが強まっており、特にスギ3m材の中目材原木が不足している。

耳からウロコ

真の林業関係国会議員の話

— 本当に耳からウロコ —

国会議員の先生の話は書きにくいですが、既に議員を辞められた方の話ならとちよつと記憶をたどって話してみたい。

まずは、真の意味での林業関係者である。何といつても吉野正芳先生である。福島県いわき市出身で磐城高校から早稲田大学を卒業して、実家の吉野木材に勤務していた。当然、木青連でも活躍していた真の木材関係者である。本人からは、「最初は型枠板も作っていたが、型枠合板が出てきてロシア材に転向した」と聞いていた。ロシア丸太関税問題の時に、全国のロシア材関係者に国産材転換を勧めていた。その結果、富山県高岡市や山形県酒田市で転換に踏み切った製材工場もあった。吉野先生は、林業・木材関係の会議には必ず参加していたが、ある日、議員会館に来て欲しいと連絡があった。お伺いすると、いきなり頭を下げられて、「めんなさい、うちの吉野木材はロシア材から離れられない。その代わり、親戚の吉野木材が国産材に転換するのでよろしく」ということだった。後に、国産材転換した吉野木材の工場を見に行ったが、本当に熱心に取組んでいた。若い社長だったが、残念ながら早くに亡くなってしまい、国産材製材工場は今稼働していない。吉野先生も残念かな。

次は、長崎県出身の谷川弥一先生である。九州一円で活躍している、木造住宅をリード

する谷川建設の創業者である。林業関係の会合の後、話していたら、意外な話を聞かされた。「君、国有林の職員だよな。国有林の入札に参加して入札を入れたことのある国会議員は俺一人だと思うよ。何と1円差で落札したことがあるのは最大の思い出」「えっ、参加していたんですか?」「五島に製材所も持っていたんだ。今は休止しているが、戦後植えた木も大きくなってきたからいつかは再開したい」と思っている。入札で1円差と聞いて、かつて、個々の入札単価で、必ず10万7円とか、20万88円とか、50万1円とか会社社によって端数をつけていた話をする、そんな話を知っている国会議員は私ぐらいだよな」であった。公共建築物等木材利用促進法案可決の際に、真つ先に先生に喜びを伝えられたのも思い出である。

最後に、業界人ではないが、伊東正義先生である。私は面会したことは無いが、農林省出身で、事務官であるが何と東京営林局長や名古屋営林局長にもなっている。後には、農林事務次官のトップになったが、局長発令は一回左遷されたことと聞いたことがある。ある業界関係者から、都内の赤坂か新宿御苑の伐採に彼が反対して今の風景が守られたと聞いた気がする。福島県会津若松出身であるが、リクルート事件の後に、総理就任を頼まれたが頑なに拒否したのは有名である。このような人柄の人は他になかなかいないかもしれない。おまけですが、いわき市の磐城高校と並ぶ磐城女子高等学校（現在は磐城桜が丘高校）出身者では、ビートルズのジョン・レノンの奥様オノ・ヨーコさん、超有名女優の秋吉久美子さんと名門校である。